

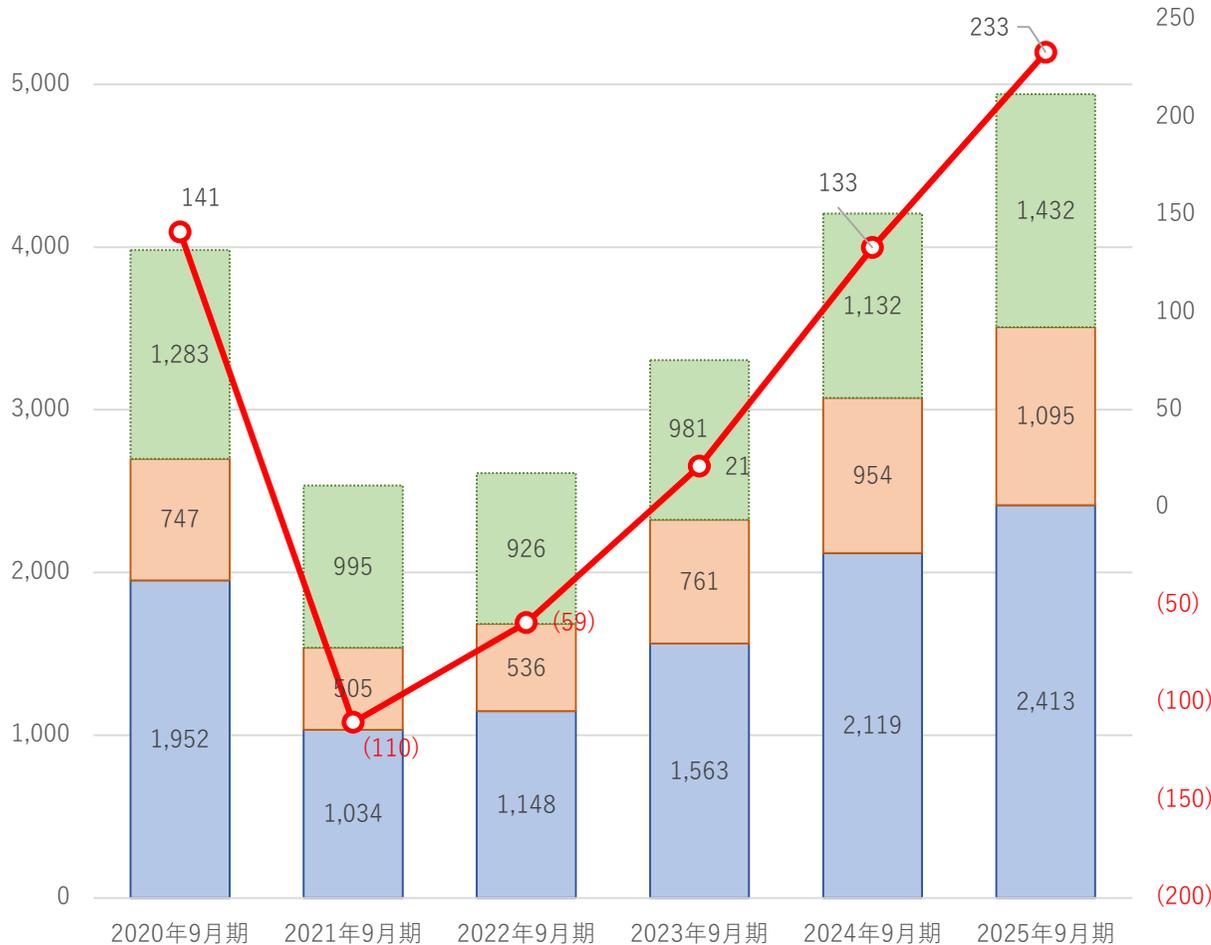
2025年9月期 第1四半期
(2024/10-12)

決算説明資料

2025年2月
株式会社CSSホールディングス

第1Q 連結業績

売上高 4,936百万円、対前年同Q比 +17.4%
 営業利益 233百万円、対前年同Q比 +73.9%



ストックビジネス

スチュワード事業

- 食器洗浄・管理／厨房清掃／客室清掃

フードサービス事業

- 食堂の運営／ホテル朝食レストランの運営／介護施設の食事提供

フロービジネス (一部ストック)

空間プロデュース事業

- 防犯カメラ、AV機器等の販売・保守／BGM・香りのサブスク／BGM・映像によるブランディング支援
- 音響機器の卸販売／会議システムやオーディオシステムの卸販売

※ 連結売上高は連結会社相互間の内部売上高を除いております

第1Q 連結業績

経常利益 148百万円、対前年同Q比 +65.1%
当期純利益 105百万円、対前年同Q比 +43.1%

	2024年9月期	2025年9月期	対前年差異
経常利益 (千円)	148,074	244,536	+96,461
当期純利益 (千円)	105,827	151,456	+45,628
1株当たり四半期純利益 (円)	21.19	30.29	+9.10
潜在株式調整後 〃 (円)	20.99	30.14	+9.15
減価償却費 (千円)	14,706	16,760	+2,053
のれんの償却費 (千円)	1,597	1,597	—



TechMagic 株式会社との戦略的パートナーシップ合意



TECHMAGIC



CSSホールディングスは人工知能の機械学習、ロボティクスなど最先端技術を活用した新たな食のインフラを創造する TechMagic 株式会社と未来型のホテル・宿泊業界のオペレーションの実現を目指し、ホテル内の厨房・調理等をはじめとするオペレーション領域の自動化・省人化の実証実験を推進する戦略的パートナーシップを合意いたしました。このパートナーシップによって、当社グループのお取引先様はもとより、より多くのお客様に向けて AIロボティクスを活用した新しい“おもてなし”機会の提案を図り、よりスマートな未来の創造に貢献してまいります。

セグメント毎の業績推移

スチュワード事業



- ホテルの高稼働や客単価上昇による当社売上アップ、高稼働による業務アイドル時間減少による生産性＝収益性上昇、前年の新規開業事業所の売上が年間反映することでの収益アップ、労務費や資材コスト上昇をクライアントに価格転嫁する営業努力、これらによって限界利益が上昇
- 大型ホテルの開業は引き続き堅調であり、新規事業所6件を開業、1Q時点で今期開業事業所による売上予算の消化率は8割を超えて順調に推移、通期では1Q開業済件数の2倍を超える案件が確定、準備を進めており、次年度以降の収益貢献も期待が大きい
- 外国人正社員採用活動や、従業員エンゲージメント強化、シフト業務・労務関係業務プロセスの再構築など、職場環境や業務フローの改善への投資による事業基盤強化を推進、パート・アルバイトは第1Qに398名純増

外国人正社員採用活動



2024年10月、セントラルサービスシステムは、ダイバーシティ推進部を新設し、多様な国籍の人材に対応できるよう取り組み、新たに**外国人正社員の採用を実施**するにあたっての受け入れ等の準備をすすめてまいりました。外国籍の方が仕事をするうえでの作業・衛生安全に配慮した**研修やコミュニケーションの促進、社員寮の整備**など生活面でもサポートを行います。今後は明確なキャリアパスや業務における明確なビジョンを示し、モチベーションの向上を図ります。

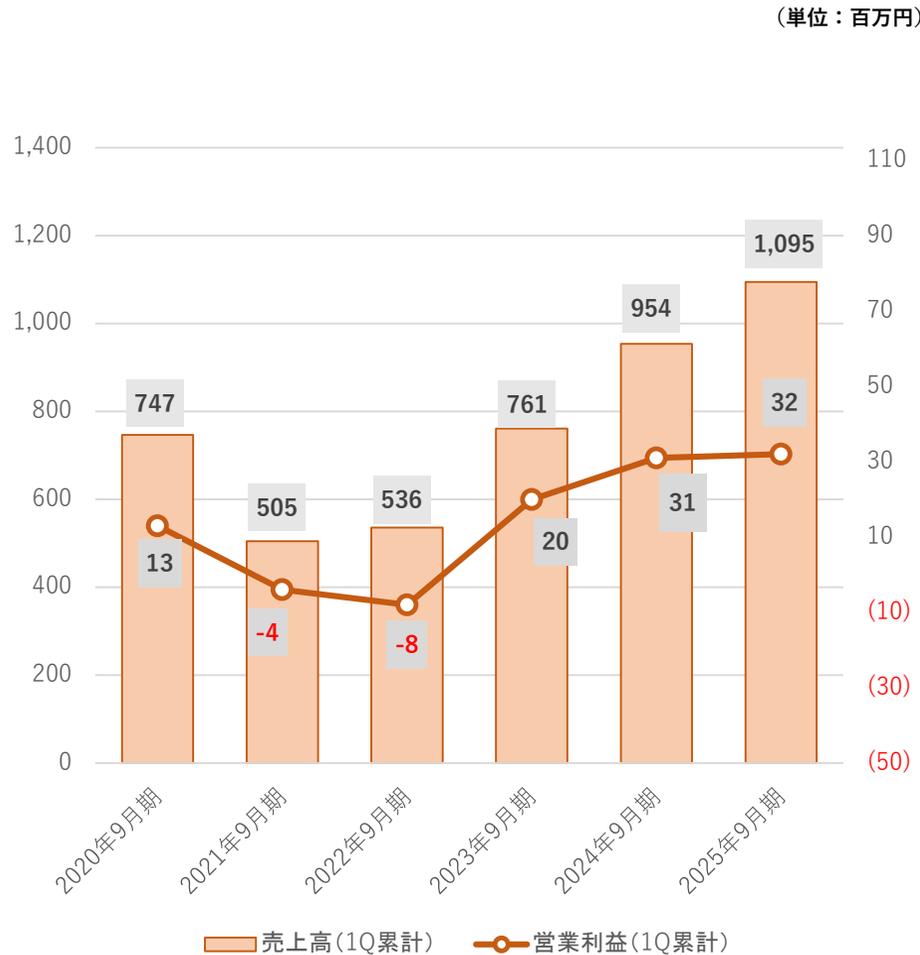
SaaS導入による従業員エンゲージメント強化



シフト業務・労務関係業務プロセスの再構築など、職場環境や業務フローの改善による事業基盤強化によって収益力を高める取り組みに対して積極的な先行投資を行いました。これまで手作業で行っていたシフトの管理、運用を新たにアプリケーションを導入、**DX化の追求**によって効率化を図ります。また、健康診断、人事給与・労務関係についても、グループ会社で**シェアードサービス事業を営むCSSビジネスサポートと連携した効率化**を進めてまいります。

セグメント毎の業績推移

フードサービス事業



- 新規事業所5件を開業、このすべてが従業員食堂、朝食レストランに続く第3の柱としてカテゴリー開発しているケアフード分野、具体的にはサービス付き高齢者向け住宅やクリニックといった業態のお客様であり、ケアフードによる売上シェアは従来の6%台から12月には7.5%まで伸長
- 産学連携によるメニュー開発や実店舗での提供準備、ホテルのお客様を巻き込んだ朝食体験への挑戦、従来から力を入れている調理現場におけるSDGsへの取組み推進など、社会との関わりにおける価値創造においても、多くの新たな取り組みが具体的な事例として実現
- 増加傾向にある外国人雇用に対して、受入れやフォローについて対応体制を確立する必要性が高まってきており、具体的な体制構築をスタート



コンフォートホテルERA伊勢、東京東神田受注



コンフォートスイーツ東京ベイ、コンフォートホテル松山に続き、リブランドオープンのコンフォートホテルERA伊勢、同・東京東神田の2件を受注しました。「新しい朝食体験」をテーマに多彩なメニューを映したサイネージを設置し、パンケーキマシンをお客様自身で稼働させ、色とりどりのサラダやフルーツなどを自分好みにトッピング、盛り付けが可能です。また、伊勢には伊勢うどんやめはり寿司、神田では深川粥や更科そばなどご当地メニューもお楽しみいただけます。



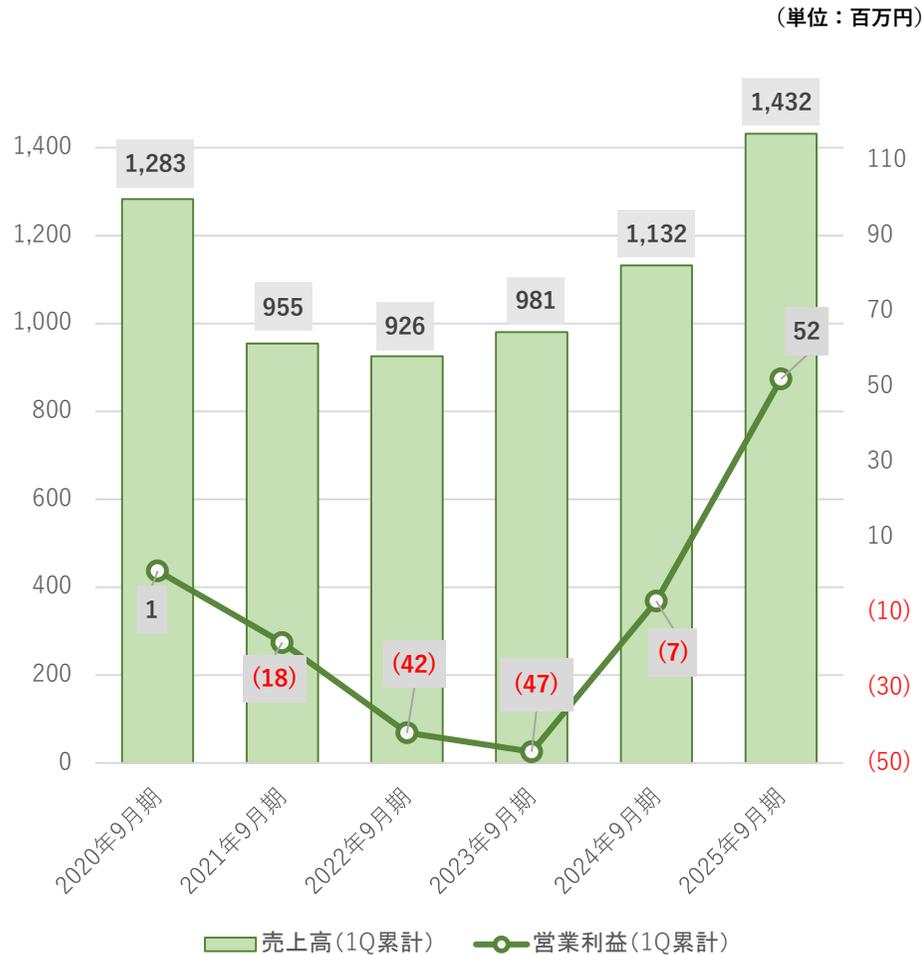
産学連携レストラン朝食改善プロジェクト



センダンが朝食運営する九州のホテルでは、2024年12月に熊本学園大学との共同企画「産学連携朝食改善プロジェクト」が実施されました。熊本学園大学のゼミでは「ホテル朝食の魅力創出」をテーマに、レストラン調査、マーケティングを行い外部目線で考案した、熊本のホテルで食べたい朝食の開発に取り組みられました。提案されたメニューについては、ホテル会場でプレゼン、選考会を行い、厳正な審査の結果、学生が考案したメニュー「熊本の真鯛」をメインとしたお茶漬けをホテル朝食会場にて提供しました。

セグメント毎の業績推移

空間プロデュース事業



- 銀行・生命保険・証券等金融業界の監視カメラ及びLEDサイネージ更新需要をはじめとして、メーカー・ショッピング施設・テーマパーク・高級車ショールーム・大学施設・リゾートホテルにおけるAV・放送設備更新などの案件による売上・収益貢献によって、堅調な業績推移
- 多くの施工会社などが決算年度末を迎える3月に向けて納品検収が集中する事業において、売上のピークを迎える第2四半期に向けて、営業・販促活動においても手応え
- つくば国際大学東風高等学校が主催する、学びを目的として休暇を楽しむラーケーションイベントにて体験型アートプロジェクトVRシアターを提供、「体験型テクノロジーを活用して生徒たちに新しい学びと感動体験を」をテーマに、地域社会の活性化を産学連携で推進する試みとして注目



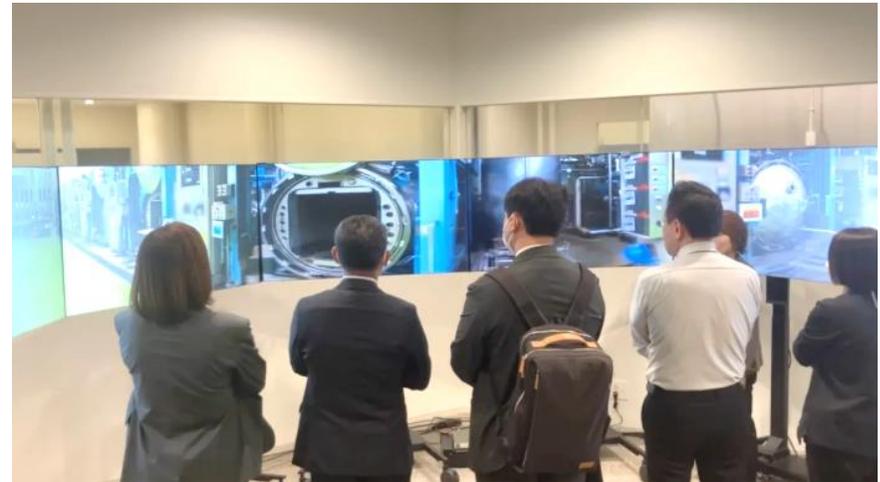
ホテル旅館の「おもてなし」ブランディングアート演出



東洋メディアリンクスは、この度、株式会社あきた芸術村・温泉旅館ゆほぼ様のエントランスで、**来場者を温かく迎えるブランディングアートをプロデュース・演出を実施**しました。このプロジェクトの特徴の一つは、**玉川大学工学部マネジメントサイエンス学科のマネジメント・コントロール研究室との共同研究による、カーボンニュートラルに代表されるグリーン活用における研究の一環**で、玉川大学構内敷地で寿命を迎えた木の再利用を採り入れています。今回のテーマは「Christmas of Art Village 2024」。冬の訪れを感じさせる秋田の雪景色、夜空に輝く星々、そして温かなクリスマスの雰囲気、プロジェクションマッピングと音楽による演出で表現しました。幻想的な冬のアートが彩る秋田芸術村。来場者を暖かく迎え、心を豊かにする空間で特別な時間をお楽しみいただけます。



未来を映し出す体験型プロジェクションVRシアター



東洋メディアリンクスは、株式会社SOAソリューションズ様と共に、鳥栖キューピー株式会社様へ、未来を映し出す体験型プロジェクションVRシアターを納品いたしました。この画期的な取り組みは、製造工場の見学に新たな価値を加え、来場者に圧倒的な没入体験を提供します。鳥栖キューピー様は、これまでの製造ラインを見せる工場見学から、デジタルを融合した感じる工場見学へと進化させる取り組みに挑戦しており、来場者がブランドへの愛着を育み、企業の理念をより深く体感できる新しいプロジェクトに取り組んでいます。工場見学を通じて製造プロセスへの理解を深めるだけでなく、環境や地域社会への貢献をも感じ取れる仕組みを目指されているその思いを実現されるべく、東洋メディアリンクスは技術による具現化に努めました。今回のプロジェクトを通じて、単なる機器の納品にとどまらず、コンテンツの企画・制作、空間設計、運営サポートまでを一貫して提供することにより、ブランド価値を最大限に高める体験空間の構築を実現しました。

免責事項

本資料は、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を約束するものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。



CSSグループは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

お問い合わせ

株式会社CSSホールディングス 経営企画室

TEL 03-6661-7840

FAX 03-6661-7841

E-mail hld-info@css-ltd.co.jp